



気温も上がり野鳥の動きも活発になりました。若葉が鮮やかで、ツツジ類の花も一層映えます。

★開花情報

ホオノキ（朴の木）モクレン科モクレン属（写真1）

山地に生え、葉は枝先に輪生し、長さ約20~40cm、幅10~25cmと日本産樹木最大級の単葉を持つ落葉高木です。展葉後、枝の先端に直径約15cmの芳香のある白い花を咲かせます。葉にも芳香があり、また殺菌作用もあるため、飛騨、木曾の郷土料理では、餅や味噌を包むのに用いられます。また本種はアレロパシー（他感作用）を示し、根や落葉などからは他の植物の生育を阻害する物質が分泌されるため、足元には下草が少なく、落ち葉の堆積が多いです。

場所：ツバキ園内、ビオトープ横他

オオデマリ（大手毬）スイカズラ科ガマズミ属（写真2上）

ヤブデマリの変種ケナシヤブデマリの園芸品種と考えられ、手毬のような花は全て中性の装飾花です。咲き始めは緑色で、後に直径10cm程の真っ白な手毬のようになります。

場所：第3,4駐車場上分かれ道

コデマリ（小手毬）バラ科シモツケ属（写真2下）

名前を見ると、前述のオオデマリと仲間のように思われがちですが、本種はバラ科の落葉低木です。枝は細く分かれ、老化すると垂れ下がります。原産は中国大陸で、わが国では古くから植栽されていました。古名をスズカケといい、江戸時代初めごろからコデマリと呼ばれるようになりました。花序の直径はおよそ3cmで当年枝に頂生し、直径1cm程の両性花を多数つけます。

場所：県木の森向かい、見本園

セイヨウシャクナゲ（西洋石楠花）ツツジ科ツツジ属（シャクナゲ亜属）（写真3）

欧米で品種改良された日本の在来種以外のシャクナゲをセイヨウシャクナゲと総称します。在来種よりも育てやすく、開花時期や色も様々なものがあります。

その他開花情報

木本…トサシモツケ、ナナカマド、ハイノキ、キリシマツツジ、キレンゲツツジ、キシツツジ、ヒラドツツジ、ハナミズキ、シナヒイラギ、コバノガマズミ、キリ、ジャケツイバラ 他

草本…キランソウ、マツバウンラン 他





写真1 ホオノキ (ツバキ園) H26.5.10



写真2上 オオデマリ (第3,4駐車場上分かれ道) H26.5.9



写真2下 コデマリ (見本園) H26.5.9



写真3 セイヨウシャクナゲ (管理事務所周辺) H26.5.9